| 社会福祉法人の事業展開等に関する検討会（第２回） | |
|---|---|
| 2019年５月15日 | 資料１－２ |

令和元年　5月15日

# ほっとかへんネットたるみの取り組み

ほっとかへんネットたるみ　代表
社会福祉法人すいせい　理事長
岸田耕二

# 発表内容

①活動の背景

②これまでの活動の様子

③実際活動してみて効果・課題

④今後の活動・展望

# ほっとかへんネットたるみ

[目的・目標]
垂水区の地域の福祉課題の解決のために
社会福祉法人の連携を図る

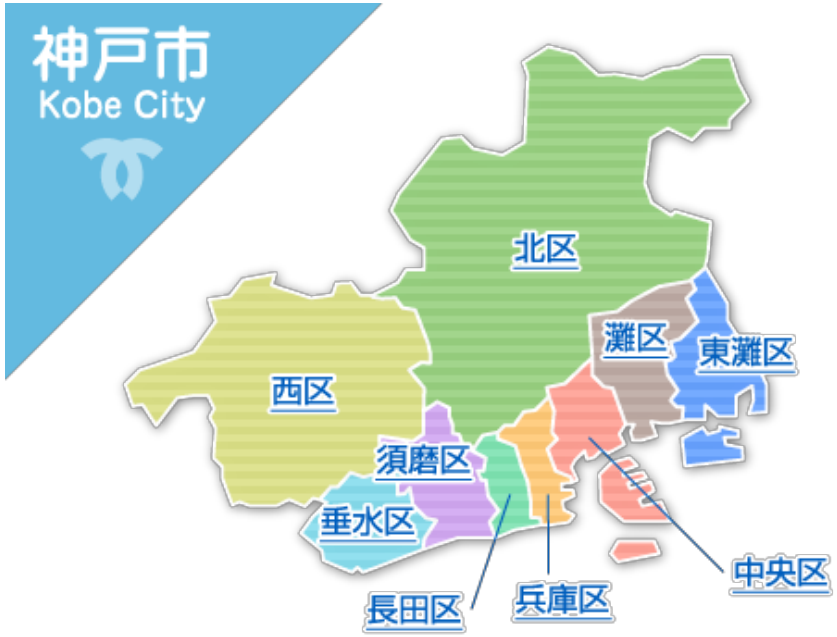
1. 総合相談を受け、他分野にも対応していくことを目標に、”つなぎ”ができるよう職種の壁を乗り越えて連携を図る
2. コミュニティソーシャルワークスキルを培う
3. 地域のコミュニティ活動を支援し「互助」を再生する

# 神戸市垂水区の概要

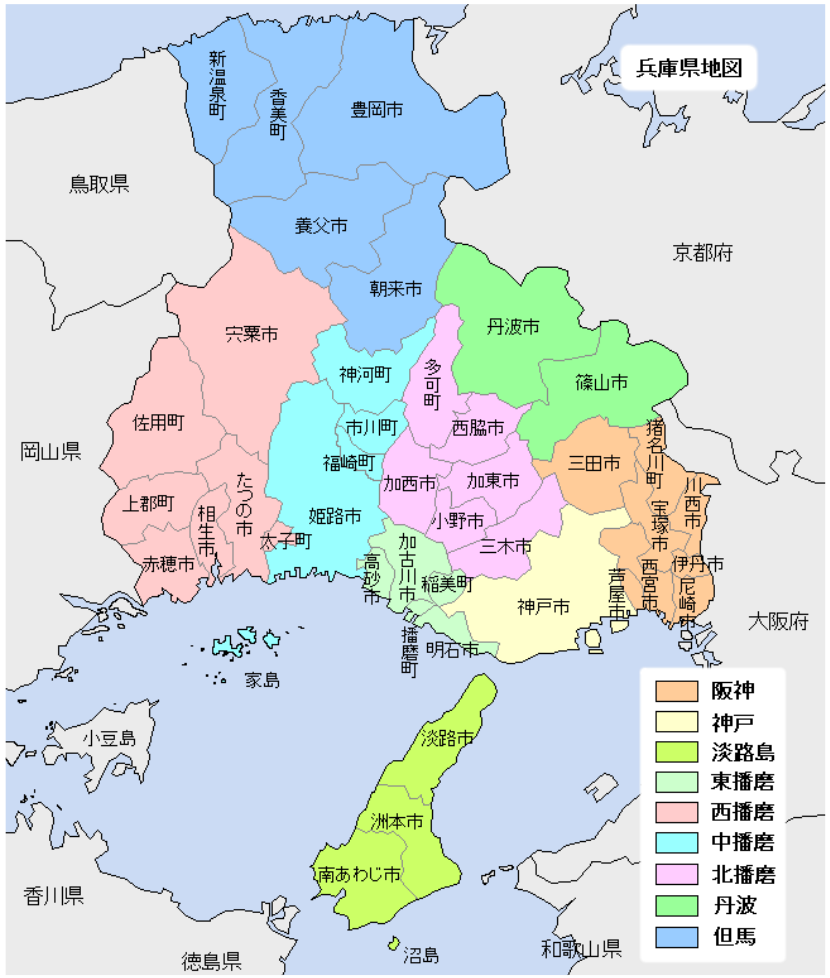
[人口]

神戸市：約152.7万人

垂水区：約　21.7万人




地図上の区名をクリックすると各区の詳細に移動します。



# 神戸市垂水区の概要

[垂水区の特徴]

- 面　積：約28km$^2$　　9区中 7位
- 人　口：約21.7万人　　9区中 2位
- 高齢者：28.6%（65歳以上）　9区中 4位
- 子ども：13.3%（15歳未満）　9区中 3位

（H27年国勢調査より）

- 海と山の近い地形
- 急な坂道の多い地形
- バスが多くの移動手段

# ほっとかへんネットたるみ

[活動内容]

◆役員会・実務者会・全体会
　活動の方針決定、研修企画

◆ベルデ名谷「災害復興住宅」での活動
　地域コミュニティの拠点づくり

◆自治会活動の支援
　コミュニティ活動の支援、互助再生

◆本多聞小学校地区での活動
　新しい地域での活動展開

# これまでの活動

## 【平成２７年度】

３月設立

５月「社会福祉法改正と地域公益事業」
　　神戸市保健福祉局監査指導課　浜田課長

８月「社会福祉法人の本旨」
　　社会福祉法人みかり会　谷村理事長

１０月「大阪生活困窮レスキュー事業について」
　　大阪府社協　社会貢献推進室　梅木室長

# ベルデ名谷活動内容

- 災害復興住宅・ベルデ名谷住宅で「暮らしについてのアンケート」の実施

・垂水区社会福祉協議会　・垂水区保健福祉部健康福祉課　・垂水区まちづくり推進部まちづくり課

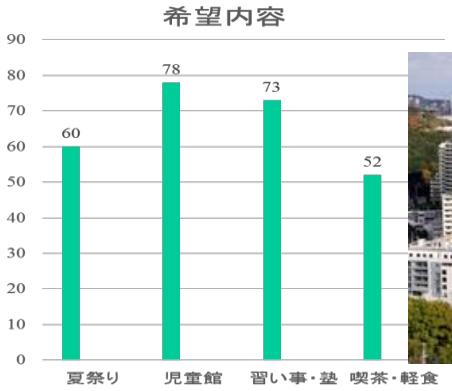
【趣旨】

- 垂水区名谷町の災害復興住宅「神戸市営ベルデ名谷」（総戸数980戸）においては、入居から約17年が経過し、阪神・淡路大震災で被災した入居者の高齢化が進む中、垂水区と垂水区社会福祉協議会では、入居者の生活実態を把握することを目的とし、全戸を対象とした個別訪問によるアンケート調査を平成26年度に実施しました。このような実態調査は、災害復興住宅において初めて実施したものです。

【主な結果】

（3）自分の健康に悩みや不安を感じている回答者は、被災入居者65%、一般入居者55%、全体で60%入居者が不安を感じており、悩みや不安に関する項目で最も高い回答率となっている。

（4）全体の52%が「喫茶や軽食を提供する場所」が「あれば良い」と回答した。また子どものいる世帯の60%が夏祭り、78%が児童館、73%が習い事・塾が「あれば良い」と回答した。



# 活動経緯、発足後の取組み

産経ニュース

2015.5.20 13:25

## 入居者孤立がちに　災害復興住宅「ベルデ名谷」アンケート結果　神戸市

神戸市の阪神大震災の災害復興公営住宅「市営ベルデ名谷住宅」（同市垂水区）の入居者のうち、約4割が「近所の人とほとんど話をしない」と回答していることが19日、市が実施したアンケート調査で分かった。災害復興公営住宅の入居者の孤立しがちな一面が改めて浮き彫りとなった。

アンケートは、災害復興公営住宅入居者の生活実態を調査し、今後の支援などに役立てることが狙い。市職員らが平成26年9月に戸別訪問し、全819世帯の67・5%にあたる553世帯953人から回答を得た。

回答者のうち震災被災者は58%で、平均年齢は74歳だった。住民同士の交流について聞いたところ、「あいさつをしている」と回答したのは72%だった一方、「近所の人とほとんど話をしない」と答えたのは38%にのぼった。

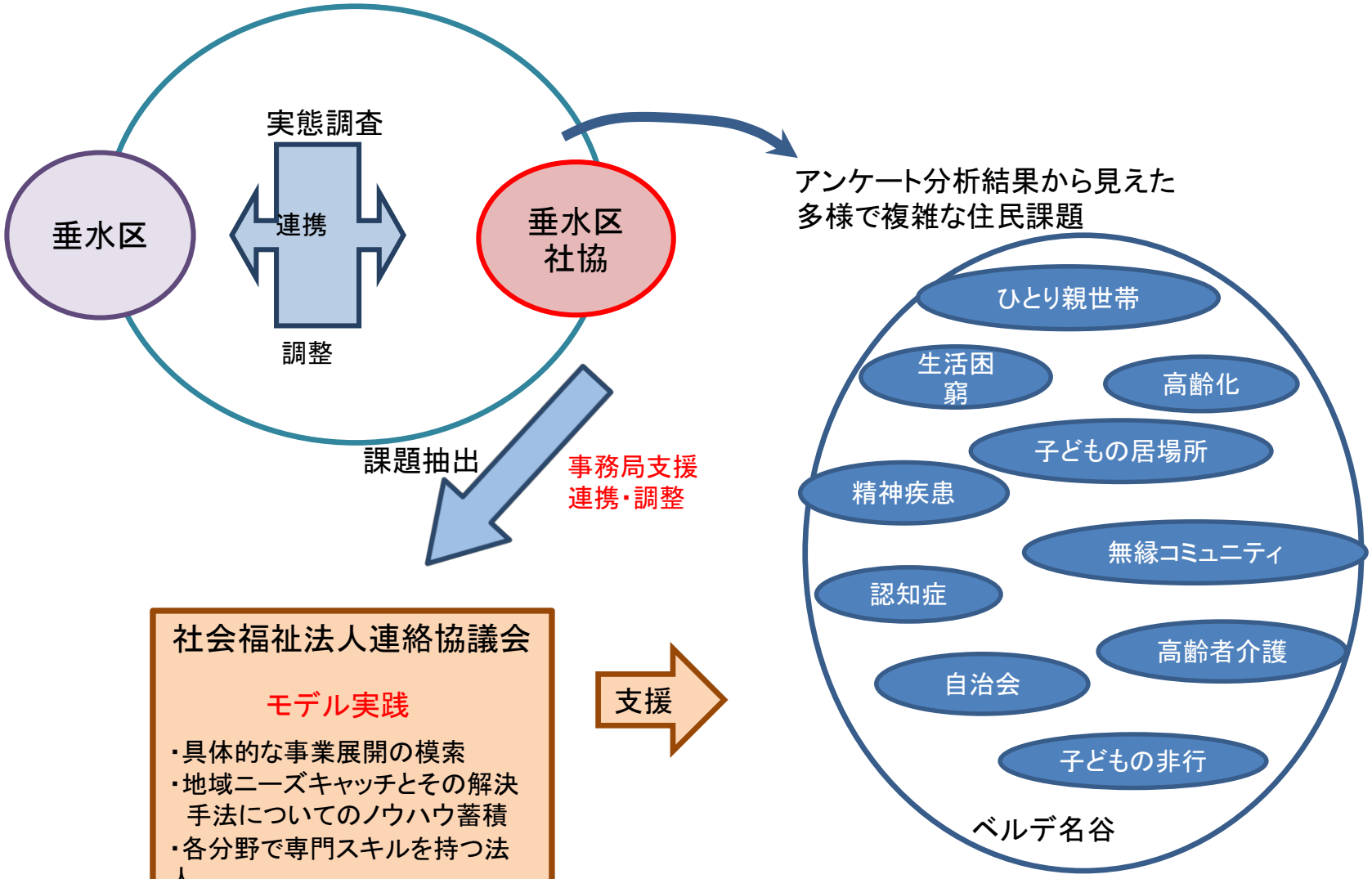
「住人同士で、世代をこえて交流できる行事があれば良いと思う」と答えたのは54%で、半数以上が住民同士の交流の場を求めていることも判明した。

また、「今後も住み続けたい」と答えた被災者は84%いた。

市の担当者は「今後は交流の場を増やすなどし、住みやすい住宅にしていければ」としている。

ベルデ名谷は、総戸数980戸の県内最大規模の災害復興公営住宅。26年6月時点で819世帯1461人が入居している。

©2016 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.


実態調査
垂水区
連携
調整
垂水区
社協
アンケート分析結果から見えた
多様で複雑な住民課題
課題抽出
事務局支援
連携・調整
ひとり親世帯
生活困窮
高齢化
子どもの居場所
精神疾患
無縁コミュニティ
認知症
高齢者介護
自治会
子どもの非行
ベルデ名谷
社会福祉法人連絡協議会
モデル実践
・具体的な事業展開の模索
・地域ニーズキャッチとその解決手法についてのノウハウ蓄積
・各分野で専門スキルを持つ法人同士の横のつながり
支援

# これまでの活動②

【平成２８年度】
・参加法人プレゼン（事業、活動、地域貢献活動）
“災害復興住宅ベルデ 名谷”
・ふれあいオープン喫茶＋（プラス）
・ベルデまつり、クリスマス会、もちつき大会
・子どもの居場所づくり事業

【平成２９年度】
・ふれあいオープン喫茶ミニ（毎週火曜）
・新たな地域での活動展開　住民アンケート実施
・地域の夏まつりの協力参加

# ベルデ名谷　活動

【ふれあい喫茶プラス】
月一回　第3土曜日

参加住民262名
スタッフ　67名

【ふれあい喫茶ミニ】
毎週　火曜日

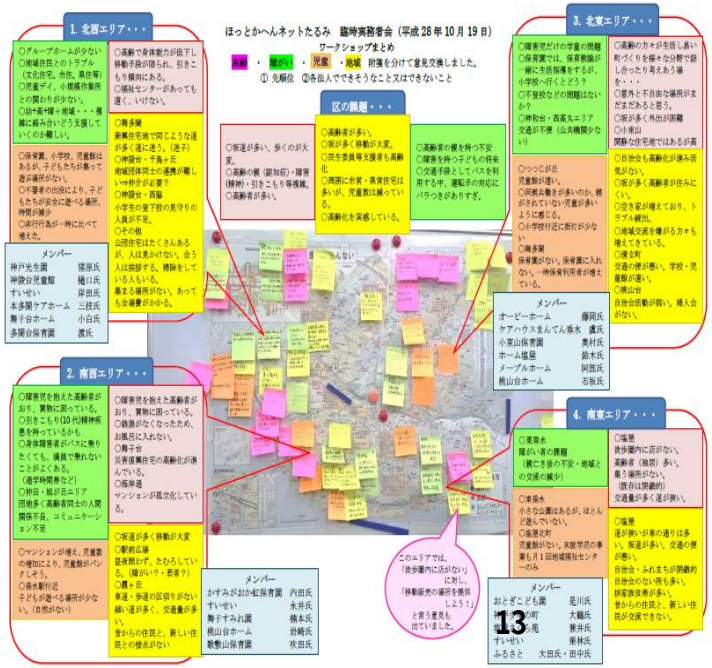
参加住民941名
スタッフ　147名

【その他】　ベルデ祭り、餅つき、
夏休み子供の居場所
など

# これまでの活動③

- 平成30年
  本多聞小学校区にて
  300人以上からアンケートを取る。

高齢者の集いの場に出向き
「福祉なんでも相談」を実施



# 社会福祉法人連携の活動を通じて見えてきたもの

① 地域住民の方と子どもの関わりの変化

- 「前はどこの子かわからないから声かけられなかったけれど、最近は向こうからあいさつしてくれる」
- 「顔見知りになったから、危ないことをしてたらちゃんと注意できる」
- 「いい子にしとったからお菓子あげた」
- 「（子どもらが）部屋に遊びに来よったよ」
- 「イベントのときは、子どもらが喜ぶように」

↓

地域の中でそれぞれの関わりが少しずつ深化

# 社会福祉法人連携の活動を通じて見えてきたもの

② ほっとかへんネットたるみの活動での協働から普段の業務における連携へ

- 活動を通じて顔見知りから連携機関へ
- 実務者・法人のお互いの強みを知る
- 自法人の相談で解決できないことへの対応
- 知り合うことで既存ニーズへの新たな対応

↓

活きたネットワークへとなりつつある

# 社会福祉法人連携の活動を通じて見えてきたもの

② 活動での協働から普段の業務における連携へ【具体的事例】

Ex.1【高齢×障害】

- 高齢者地域包括支援センターでのケースで、ひきこもりの精神（疑い）の息子さんがいる…

→障害の地域生活支援センターへの相談
アプローチの仕方、医療、行政どう巻き込むか

Ex.2【児童×障害】

- 児童養護施設にいる軽度知的障害の18歳の子（普通校在籍）が来年退所しないといけないがどのような仕事が向いているのか、障害者就労がいいのかわからない…

→障害の就労移行支援事業所での夏休みの就労体験
アセスメントとフィードバック、本人の自信へ

今、地域にある資源・機関を効果的につなぎ合わせていく

# 他市・他区

- ほっとかへん活動を兵庫全体で展開中
- 別区ではゴミ屋敷問題の解決
- 災害時の地域支援を実行

# これからの課題

- これまでの活動をふりかえり、今後どのような活動を行っていくか、中長期的な計画を
- それぞれ社会福祉法人が、地域住民の方々に知ってもらい、ちゃんと頼られる存在になるために
- 法人間連携における活動と、各法人がそれぞれの所在地域で役に立つ法人となるために

↓

（地域に）足を運ぶ・知ってもらう・知り合う
（社福が）相互に、お互いの持ち味を知り合う
社会福祉法人を、使ってもらう・使い合う
＜地域共生社会の実現に向けて＞

# まとめ　法人連携

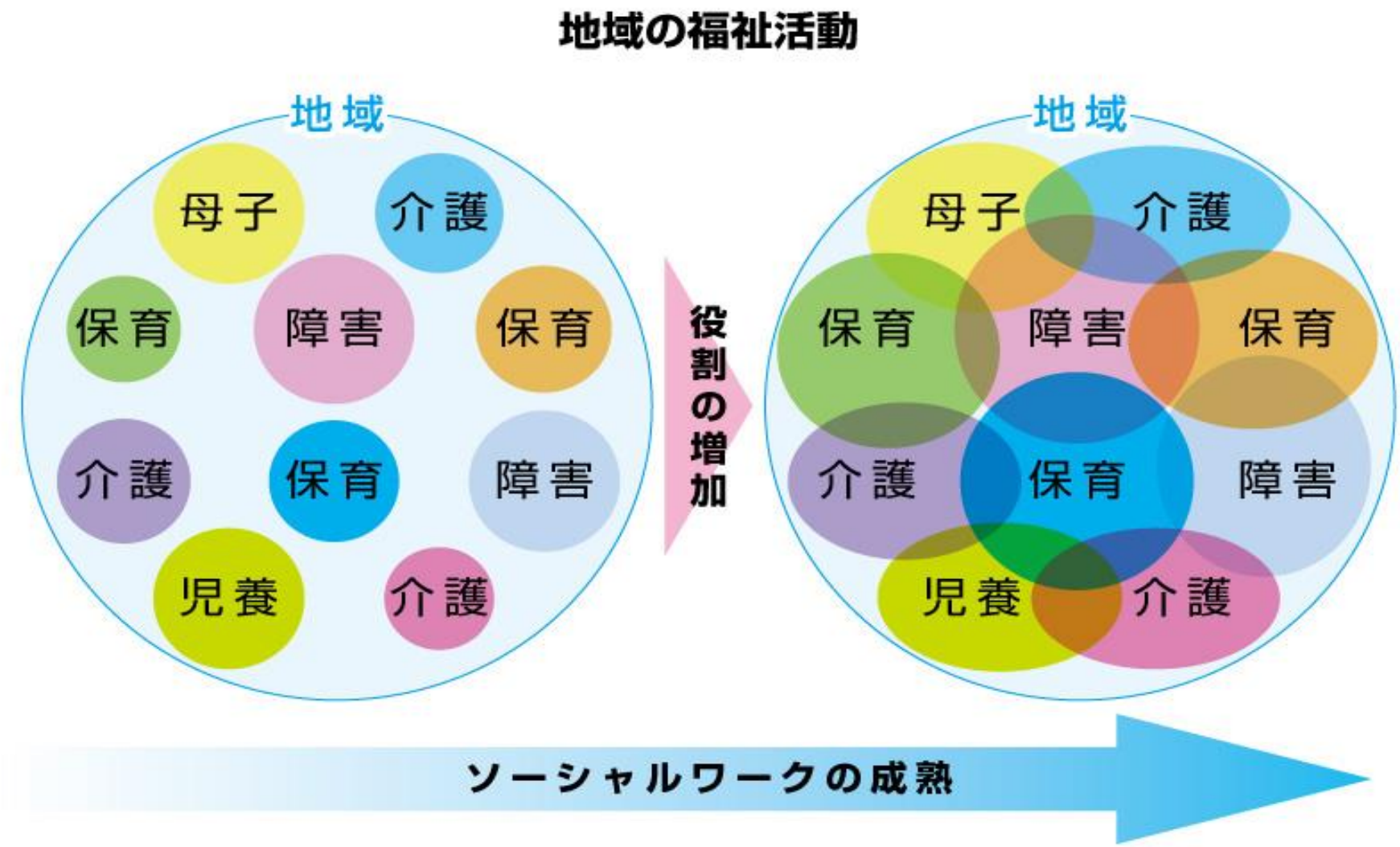
## ①自法人だけではできない地域貢献ができる

・規模の大きな地域貢献ができる

・様々な知識・経験が混ざるのでメニューが広がる

## ②地域の福祉の顔が繋がり日々の業務で連携が取れるようになる

## ③スタッフに社会福祉法人の自覚とソーシャルワークの視点とマインドが育つ




誰一人おいていかない社会を実現する（SDGs）
オール福祉で取り組むツール

# *Always On Your Side*

ご清聴ありがとうございました

SUISEI

すいせい　福祉　検索

078-704-6262
concierge@sfsuisei.org